再評価個表

事 業 名	農村地域防災減災事業 (防災重点農業用ため池 緊急整備事業)	**事業主体**	愛媛県
施設･工区名等	吾川(あがわ)地区	**事業箇所**	伊予市上吾川(かみあがわ)
事業主旨	本事業は、伊予市上吾川において、老朽化等により決壊の危険性が高まっているため池を改修し、農業用水の安定供給を維持するとともに、下流の農地、人家、公共施設などの安全を確保することにより、地域農業の振興と農村地域の安全性向上を図るもの。		
再評価の 実施理由	「事業採択後１０年が経過して継続中」の補助事業		

１．地域の概要

本地区は、伊予市の中心部の南に位置し、二級河川梢川沿いに広がる平野部の水田地帯に住宅地が点在する農村地域である。

地域の農業は、水田では水稲の営農であり、平野部の上流側では果樹も行われている。

気候は、瀬戸内式気候に属しており年間を通して降雨量が少なく、地区内の主水源はため池である。

本地域のため池は築造後約 300～400 年が経過しており、堤体からの漏水や法面浸食、洪水吐及び取水機能の低下など、老朽化が顕著なことに加え、下流域に多くの人家や農業用施設、市道等があることから、決壊時に甚大な被害が発生することが懸念されており、地域の課題となっている。

２．事業概要及び事業経緯

事業採択	平成２９年度	**完成予定**	令和１０年度（見込み）
用地着手	平成３０年度	**工事着手**	令和元年度
全体事業費	１，１９３．６百万円(うち用地費：０．３百万円)		
(1)事業概要	受益面積　３３．８ｈａ ため池　３か所 ・初ヶ谷池(はつがたにいけ)　堤高 9.0m、堤長 37.7m、貯水量 3.9 千 m3 ・市ノ坪池(いちのつぼいけ)　堤高 4.5m、堤長 327.0m、貯水量 14.9 千 m3 ・八幡池(はちまんいけ)　堤高 7.9m、堤長 478.3m、貯水量 75.5 千 m3		
(2)事業経緯	平成２９年度　事業採択、初ヶ谷池・市ノ坪池　調査測量設計着手 令和　元年度　初ヶ谷池　工事着手 令和　２年度　八幡池　調査測量設計着手 令和　３年度　初ヶ谷池　工事完了 令和　４年度　市ノ坪池　工事着手 令和　６年度　八幡池　工事着手 令和　７年度　市ノ坪池　工事完了		

３．事業の必要性及び整備効果等

（１）事業の必要性（整備効果）

本事業は、伊予市上吾川において、老朽化したため池を整備することで、下流受益地の農業用水を安定的に確保するとともに、決壊被害を未然に防止することを目的としている。

本地区のため池は、築造後約 300～400 年が経過しており、堤体からの漏水や法面浸食による断面変形、洪水吐の断面不足などにより、決壊の危険性が高まっている。

近い将来発生が予想されている南海トラフ巨大地震等の自然災害により、これらのため池が決壊すると、ため池を水源とする受益地への営農被害だけでなく、下流の人家や農地等に多大な被害を与えることから、農業用水の安定的な確保と下流域の安全・安心のため、早急な改修を要している。

（２）事業の整備効果

【農業用水の安定確保】

ため池堤体の改修により、取水施設を整備し効率的に用水を利用できることから農業用水量が安定的に確保される。

【災害の防止】

ため池堤体の強化、洪水吐の整備により、地震・豪雨による決壊被害の未然防止が図られる。

（３）事業を巡る社会経済情勢等の変化

平成 30 年７月の西日本豪雨では全国で多くのため池が決壊し、本県でも多くのため池が被災したことや、令和６年の能登半島地震や豊後水道地震の影響もあり、南海トラフ巨大地震による甚大な被害の懸念から、ため池の安全性について住民の関心が高まっている。

４．事業の進捗状況及び進捗の見込み

（うち用地費） Ｒ７末投資事業費	（０．３百万円）［進捗率：１００％］(事業費換算) ５２３．９百万円　［進捗率：　４４％］(事業費換算)

（１）事業の進捗状況

当該事業は、平成２９年度に事業着手し、令和７年度までに、ため池３箇所のうち２箇所の整備を終え、進捗率は事業費換算で４４％となっている。

八幡池については、令和２年度に調査・測量・設計に着手し、工事用道路と堤体の工事の着手が令和６年度、令和１０年度の完了見込みとなっている。

（２）これまでの整備効果

初ヶ谷池・市ノ坪池は、改修により、取水施設の機能を最大限に発揮することにより、受益地に安定的な農業用水を供給できるようになった。また、ため池の決壊時に想定される被害を未然に防止し、下流域の安全性が向上した。

（３）今後の事業進捗の見込み

八幡池については、今後工事に支障となる要因はないため、令和１０年度に事業完了する見込みである。

５．事業の投資効果（費用対効果分析）

（１）費用便益比

Ｃ：総費用＝　　１，１８６百万円
- ・事業費　　１，１９８百万円
- ・その他　　△１３百万円

※その他は供用開始後40年間に必要な再整備費−40年後の資産価額

Ｂ：総便益＝　　２１，９２１百万円
- ・災害防止便益　　２１，９３０百万円
- ・維持管理費節減便益　　△９百万円

Ｂ／Ｃ＝　　２１，９２１／１，１８６≒１８．４９

※総費用及び総便益については、四捨五入のため内訳の合計とは一致しない場合がある。

６．コスト縮減や代替案立案等の改善

・ため池の法面保護工において、張ブロックから効率的な施工が可能な工法（ブロックマット・布製型枠工）に変更することで、施工にかかる費用を縮減した。

７．そ　の　他

・愛媛県総合計画～未来につなぐ えひめチャレンジプラン～において、「施策 29：大規模災害に備えたまちづくり」(6:農山漁村地域の防災対策)に位置付けられている。
・えひめ農林水産業振興プラン 2026 において、第２章農業編「地域づくり」の内の「１．防災・減災対策の推進」において、ため池の防災減災対策が位置付けられている。

８．対応方針（素案）

本事業を『継続』としたい。